

北琉球鳥島方言の代名詞

van, der Lubbe Gijs / ファン・デル・ルベ, ハイス

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

41

(開始ページ / Start Page)

25

(終了ページ / End Page)

57

(発行年 / Year)

2017-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00014495>

北琉球鳥島方言の代名詞

ハイス・ファン・デル・ルベ¹

はじめに

本稿では、北琉球鳥島方言の代名詞の体系を記述する。

1. 対象言語

鳥島方言は、北琉球諸語に属する言語である。鳥島は、久米島町に属する集落であるが、その人々が1903年に硫黄鳥島から移住した人々の子孫である。硫黄鳥島は、徳之島の西約65キロ東シナ海に位置する。硫黄鳥島の孤立によって北琉球諸語の中で独自の言語変種ができた。鳥島方言の先行研究としては、野原三義（1980）、内間直人（1980）、中本正智（1980）、津波古敏子（2009）、かりまたしげひさ（2013）がある。

2. 鳥島方言の現況

久米島は、沖縄語に属する言語が日常生活の中で用いられている環境であるため、硫黄鳥島の人々が久米島に移住し、周辺に暮らしている久米島の人々と意思の疎通を図るために沖縄語も自然に習得するようになった。そのため、鳥島の人々のうち、沖縄語（*utjina:gutji*）、鳥島方言（*jimagutji*）、日本語（*jamatugutji*）という3つの言語を使い分けて生活している、いわゆるトライリンガル（3言語併用者）が多いようである。

ことなる言語の使用者が社会で接触するばあい、お互いの言語を習得したりすると、それぞれの言語がお互いに影響をおよぼすようになり、このような言語接触によって、社会的に権威が高い言語が権威の低い言語におよぼす影響のほうが強いようである。久米島には、鳥島方言話者がマイノリティーであるため、‘言語の権威の順’では、鳥島方言が沖縄語久米島諸方言と日本語に劣っているようである。そのため、語彙の借用や文法などがだいたい沖縄語と日本語から鳥島方言へ向かって行われており、鳥島方言たらしめる特徴がだんだん薄くなりつつあるようである。著者の観察に基づいて鳥島方言と沖縄語と日本語との言語接触のばあいは、鳥島方言に沖縄語からの影響が特に強く、80代後半の話者は、まだ鳥島方言らしき言語を話す、それより若い話者は、沖縄語に強く影響された鳥島方言を話す。沖縄語の語彙の借用は、80代後半の話者でも見られるが、文法的な要素の借用は、70歳以下の鳥島の人々は、ほとんど沖縄語と日本語しか話さないようである。

¹ Gijs van der Lubbe

- 1) I. ϕ udze:=ga nibutuje: wa:sa ma:=Nke:=jatiN Ndzi Nma=i:
 II. taNme:=ga niNtuje: wa:sa ma:=Nke:=jatiN Ndzi Nma=i:
 III. taNme:=ga niNto:kutu wa:sa ma:-gara=Nke: Ndzi Nma=i:
 祖父が 眠っているから 私達 どこかに 行ってみよう。

I は、純粋に近い鳥島方言である。語彙的にも文法的にも鳥島方言である。II には、沖縄語の語彙的な影響を受けた鳥島方言である。鳥島方言 ϕ udze: 「祖父」よりは、沖縄語「taNme:」が用いられており、鳥島方言 nibujuN 「眠る」より沖縄語 niNdzuN が用いられているが、テオリ相当形式の -tuN 形をとっており、理由・原因をあらわす鳥島方言の接辞 -je: がついている。III は、沖縄語の語彙的な影響と文法的な影響の強い鳥島方言である。沖縄語の語彙である niNdzuN 「眠る」が沖縄語のテオリ相当形式の -to:N 形をとっており、理由・原因をあらわす接辞も鳥島方言の -je: より沖縄語の -kutu である。具体的にはっきりと分からない、決まっていない、または、言う必要のない物事をあらわす不定語（疑問詞 + 「か」構造に相当する語）は、鳥島方言では、疑問詞（+ 格助詞）+ コピュラのテモ相当形式 jatiN であらわされるが、沖縄語久米島諸方言で用いられる疑問詞 + gara が用いられている。

鳥島方言が話せるさまざまな世代の中では、文法とそのほかの語彙と比べて代名詞の使用が安定しており、今でも比較的に調査しやすい。

3. 調査方法

本稿で対象とする資料は、2015年12月から2016年7月にかけて、聞き取り調査に鳥島方言の母語話者である1920年生まれのSM氏（女性）、1921年生まれのIY氏（女性）、1929年生まれのIK（男性）、1930年生まれのNK（男性）、1953年生まれのKO氏（男性）から得られたものである。

4. 代名詞

代名詞は、日本語記述文法研究会（2010：105）の定義では、「物事を、文脈や場面に基^{はんちゆう}づいて指示する名詞」である。代名詞という範疇には、人称代名詞（再帰代名詞（反照代名詞）・相互代名詞も含める）、指示代名詞、疑問代名詞が入っている。人を指すばあいは、単数と複数が対立されるが、北琉球諸語のうち、双数形がある言語が多い（下地2013）。鳥島方言の人称代名詞は、形式の格による多様性がきわめて多いため、名詞述語文において述語になる形式を本稿で原形とすることにする。

北琉球諸語の代名詞については、内間（1984：162-164）、徳永（2013）などで概説されているが、鳥島方言の代名詞についての概説は、ない。

鳥島方言が北琉球語群のほかの変種と共通しているのは、三人称が指示代名詞か指示連

体詞+hitfu「人」であらわされることである。表1で示すように指示詞が人称代名詞として用いられる場合だけ複数をあらわすta:がつくことがある。

双数をあらわす一人称wa:tte:と二人称u:tte:が存在していることが特徴的であるが、奄美群島で使われる北琉球諸語と共通している（下地2013）。三人称双数形na:tte:が北琉球語群のなかで沖永良部語と与論語（菊 千代；高橋俊三2005）と奄美語湯湾方言（Niinaga 2014）でも見られる。

もう一つの特徴的な点は、敬意度の高い二人称代名詞が北琉球諸語であまねく見られるna:系であることである。

表1 鳥島方言の人称をあらわす代名詞。

		単数	双数	複数
一人称		aN	watte:	waN/wa:sa
二人称	(非敬称)	?we:/uwa:	?utte:	u:/u:sa
	(敬称)	na:		nitta:
三人称	近称	φui		φutta:
	近・中称	ui		utta:
	遠称	ai		atta:
三人称		(na:)	na:tte:	na:sa/(naNta:)

5. 一人称

一人称単数形は、aN「わたし」である。古典日本語に存在するア、アレと系統的につながっているようであり、一人称代名詞語根a-にNという要素がついた形である。表2のとおりである。a-系の一人称複数形としての使用は、沖縄北部で確認されている（名護市史編さん委員会編2006）。しかし、単数形としての使用は、南琉球では、方々で用いられるのに対し、北琉球では、鳥島方言以外では、確認されていない。鳥島方言における一人称単数形は、a-系しかなく、北琉球諸語で広く用いられるwa-系が存在しない点の特徴的である。

aNは、つく助詞によって不規則な形を示す。主格助詞のgaがつくばあい、aNに拘束されるが、a:という形式も主語としてあらわれる。トピック形と並列形には、abuという要素が入っているようである。その語源は、a+buかa+b-かは、不明である。特記すべき点としては、沖縄語久米島謝名堂方言で用いられる一人称包括複数形abita:にもa+bという要素が入っていることがあるが、これらの形式が系統的につながっているかどうかは、不明である。

表2 一人称単数代名詞の語形と文法的機能

	助詞	形式
主格	ga	aNga
属格	—	a:
無助詞主語形	—	a:
与格 (相手)	Nke:/ke:	aNke:
共格	tu	aNtu
対格	—	aN
トピック	ja	abo:(abu+ja)
並列	N	abuniN/aminiN
フォーカス	ru	aNru
極限 1	daki	aNdaki
極限 2	ge:tu	aNge:tu
数詞複合 (私一人)		aNtʃi

表2で示しているように、原形のaNがさまざまな助詞がつきうる語幹として機能する。助詞のga (主格)、ni (与格)、ke: (与格)、tu (共格)、ru (フォーカス)、ga (フォーカス)、daki (極限)、ge:tu (極限) などがみなaNにつく。

- 2) aN=ga ʔwe:=ga hama muttʃuN=jo:
 私が あなたの 釜を 持っているよ。
- 3) ʔwe:=tu aN=tu tʃo:re:=ne:-ʃi=ru u-ssa
 あなたと 私と 兄弟のように いるよ。
- 4) ai=ga aN ʃikaNʃiga, aN=ge:tu juri
 かれが 私を 好かないが 私まで 呼んだ。
- 5) aN=ni ko:suN=tʃi tsukuti re:N=na?
 私に 食べさせるために 作ったのか？

aNに助詞gaがついた形は、主に主語をあらわすのに用いられるが、属格になるばあいもある。単数の一人称が属格になるばあいは、aNgaより後述するa:のほうが多くあらわれる。

- 6) aNga ruʃiNtʃa:=ruwa
私の 友達だよ。

単数の一人称が目的語になるばあいも、aNが用いられる。

- 7) aN tafikiNba!
私を 助けろ！

名詞述語文の述語になる単数の一人称にもaNという形式が用いられる。

- 8) A : tai ja-je:?
誰 なのか?
B : aN re:ʃiga…
私 だけど…

数量名詞tʃi:「一人」がaNと融合し、aNtʃi:「私一人」になる。

- 9) aN-tʃi:=ʃe:ni suN=jo:
私1人で するよ

表2でしめしているように、a-には、接辞がつきうる語根のような機能がある。属格をあらわすばあいは、a-が単独で用いられ、多くの琉球諸語に働く最小2モーラ制約でa:と、いうように長音化している属格形式が用いられる。

- 10) uje: a: hama=ruwa
それは 私の 鎌だよ

a:という形式は、主格助詞がついていない主語としても用いられる。そのようなばあいは、対格になるaNの使用が非文になる。次の用例では、AがBに自分の釜がどこなのかを問うたところ、Bがa: muttʃuN=jo:「私が持っているよ」と返答しているが、このような文脈では、aNga muttʃuN=jo:という主格助詞gaが含まれている形式aNgaの使用も許されるが、aN muttʃuN=jo:という、aNが目的語になるという解釈のみが可能である。

11) A : a: hama ma:=ja?
私の 釜、 どこ？

B : a: muttʃuN=jo:
私ガ 持っているよ。

12) tʃinu: ʔwe:=ga haje:taje:, ʃu:=ja a: haje:juN=ruwa
昨日 あなたが 払ったから、 今日私ガ 払うよ。

鳥島方言の特徴的な点としては、人称代名詞に-gafiをつけ、その人の所有するものごとという意味合いになる。-gafiの語源は、属格助詞gaに-fiがついた形であると思われるが²、aN「私」のばあいは、助詞がついた形は、aNgaであるのに対し、-gafiがa:につく。

13) ʃe: ʔwe:-gafi re:N=na? a:-gafi re:N=na?
これは、あなたの なのか？ 私の なのか？

-gafiの-fiという要素は、動詞・第1形容詞・コピュラの準名詞形との類推で属格助詞についたと思われる。

ʔwe:ga haNme:「あなたの飯」 → ʔwe:ga + fi → ʔwe:gafi「あなたの」
ʔwe:ga iju-fi「あなたが言うの・言うこと」 → iju-fi ↗

上にも述べたように、aNのトピック形式abo:「私は」と並列形式abuniN「私も」は、一人称代名詞語根abu+助詞というようにできたと思われる。短音のuで終わる語は、トピックをあらわすとりたて助詞ja「は」との融合がおこり、o:という調音になる。このようなトピック助詞との融合は、沖縄語中南部方言でも見られる（例：沖縄語久米島謝名堂方言wanu「私」+ja「は」→wano:）。

14) abo: hau=Nke: ittʃuN=tʃi re:ʃiga,
私は、畑に 行くつもり だけど、

² 「あの人のもの」は、anu hitsu=nu-gafiになり、nuとgaの2つの属格助詞の重なりになっているようであるが、これは、通時的な展開のなかでa:-gafi「私のもの」のような助詞のない属格形式+gafiからできた形式との類推でhitsu=nu「人の」のような助詞がある属格形式にも-gafiがつくようになったと思われる。

?we:=ja ma:=Nke: ittsuN=no?
あなたは、どこへ 行くか？

15) abo: daidzitu-je: ?we: hakiba
私は、疲れているから、あなたが 書け。

鳥島方言においてとりたて助詞aが文法的な機能を2つ持っている。Miyara (2011: 88-89)によると、沖縄語においては、トピックも否定作用域も同じ助詞jaによってマークされるが、基底のレベルでは、区別すべきであるとのことである。鳥島方言では、主語の位置にaNがトピック・マーキングを受けるばあい、abo:になるが、否定作用域に入っているばあい、マーキングを受けず、aNという形が用いられる。次の用例で示しているように、fimaNtsu「島の人」がコンピュータの否定形ajaN/ajamuNによる名詞述語文の否定述語になるばあい、とりたて助詞jaによるトピック・マーキングを受け、融合してfimaNtfo:になるのに対し、同じ位置にあらわれるaNには、トピック・マーキングをうけた形abo:にならず、aNとしてあらわれる。そのため、abo:という形式の使用に主語の位置にしか用いられない制約があることが分かる。

16) fimaNtfo: ajamuN=ruwa
島の人 (= 鳥島の人) じゃないよ。

17) 古い写真に写っている人の姿を見て
φe: aN ajamuN=ruwa
これは、私 じゃないよ。

並列形式abuniNは、並列助詞Nがただabu-についた結果でなく、語源は、abu+与格助詞ni+Nにあるようである。並列形式にniが入っているのは、首里方言をはじめ沖縄語に属するさまざまな方言でも見られる現象である。

18) abuniN ittsuN=ruwa
私も 行くよ。

次の用例で示しているように、abuniNは、abo:とことなり、主語以外でも用いられる。

19) anu hitjo: aiN abuniN tashikiti tuwatji
 あの 人は、彼も 私も 助けて くれた。

一人称が2人であるばあい、一人称双数形watte:が用いられる。watte:は、aNとことなり、古典日本語のア、アレでなく、ワレと系統が同じである。通時的には、一人称代名詞語根waに双数をあらわす接辞-tte:がついた形であると考えられる。接辞-tte:は、人の数をあらわす数量名詞tai「2人」と同源であろうか。

表3 一人称双数代名詞の語形と文法的機能

	助詞	
主格	ga	watte:ga
属格	ga	watte:ga
与格 (相手)	Nke:	watte:Nke:
共格	tu	watte:tu
対格	—	watte:
トピック	ja	watte:ja
フォーカス	ru	watte:ru
フォーカス (疑い)	ga	watte:ga
極限1	daki	watte:daki
極限2	ge:tu	watte:ge:tu

watte:には、助詞と融合しないし、文法的に専用的な形式をとらえない。上の図で示しているように、主格も属格もgaがついた形で表現する。

20) watte:=ga su-N=jo:
 私たち2人が するよ。

21) uje: watte:=ga haNme:=ruwa
 それは 私たち2人の ご飯だよ。

一人称複数形には、waNとwa:saがある。waNは、一人称代名詞語根waにNという要素がついた形であり、wa:sa「私たち」は、wa-に複数をあらわす接辞-saがついた形である。-saという複数をあらわす接辞は、名護市史編さん委員会(2006:417)によると、沖縄国頭村奥で用いられる複数接辞-sa:は、-kja:が口蓋化し、-tfa:になり、それが弱化し、-sa:になっ

たとのことである。鳥島方言の複数接辞-saは、奥方言と同じような-kja:から変化してきた形であると思われる。ヒト名詞と有性名詞につく接辞-Ntja:にも-tja:という要素が入っているが、-Ntja:は、-Nsa*になっていないのは、Nが-tja:の前にあるためだろう。wa:sa「私たち」、u:sa「あなたたち」、na:sa「彼ら・彼女ら」のばあいは、複数接辞が回りの母音の影響で弱化したと考えられる。

-saが入っていない形式でもwaNが複数の意味になるところが特徴的である。一人称単数形aNは、a-という一人称代名詞語根が入っているが、複数形には、a-系が存在せず、wa-系の形しかないということも特徴的である。

表4 一人称複数代名詞の文法的機能

	助詞	wa:sa	waN
主格	ga	wa:saga	waNga
無助詞主語形	—	wa:sa	wa:
属格	—	(wa:saga)	wa:
与格(相手)	Nke:/ke:	wa:saNke:	waNke:
共格	tu	wa:satu	waNtu
対格	—	wa:sa	waN
トピック	ja	wa:sa:	—
並列	N	wa:saN	—
フォーカス	ru	wa:saru	waNru
極限2	ge:tu	wa:sage:tu	waNge:tu
数詞複合形(私たち3人)			wa:mitfe:

waNは、単数の一人称代名詞aNと似た活用を示している。無助詞主語形と属格形式は、-Nという要素を含まず、同音形式でwa:である。

22) wa: ujaNtfo:re:=ruwa
 私たちの 叔父だよ。

23) wa: ja:=Nke: ?waiNba
 私たちの 家に いらっしゃい。

24) wa: suN-kina ?we: saNtiN JimuN
 私たちが やるから、 あなたが やらなくても いい。

waNは、対格形式にもなり、名詞述語文の述語にもなる。

25) uwa: nu: suN=tji waN juraN=no?
お前、何を するために 私たちを 呼んだのか？

waN tafikiti tuwatji nihe: re:taN=ro:
私たちを 助けて くれて ありがとうございます。

26) waN re:taN=ruwa
私たち だったよ。

waNは、助詞がつきうる語幹としても機能する。

27) ?we:, waN=tu madzuN ittisuN=no?
あなた、私たちと 一緒に 行くか？

28) aje: waN=ke: aNji ijaNnibuko: na:N-gane: suN=ruwa
彼は、私たちに そう 言われたくないみたいだよ。

29) waN=ga suN-kina uwa: fiNna
私たちが するから、お前が するな。

30) fittja:=ja u: jubaNta:. waN=ru jurai
お父さんは、あなたたちを 呼ばなかった。私たちを 呼んだんだ。

waNは、wa:という形で数詞と組みあわさって2人以上であることを強調するばあい
に用いられる。

31) na:tte:=ja atja: na:ha=Nke: ittufi:
彼ら2人は、明日 那覇へ 行くけど、

wa:jutai=ja <kiNjo:bi>=Nta:na jima=na: wuN=ruwa
私たち4人は、金曜日まで 島に いるよ。

wa:saは、waNと意味的な違いがないようであるが、助詞との組み合わせには、ことなる点がいくつかある。wa:saという形では、主語にもなり、対格にもなり、名詞述語文の述語にもなる。

32) wa:sa madzuN numa=ja:
私たち、一緒に 飲もうね。

33) wa:sa ijuŋe: atta: wa:jamuN=duwa
私たちが 言うことは、彼ら、分からないよ。

34) wa:sa tafikiti tuwatŋi nihe: re:taN=ro:
私たちを 助けて くれて ありがとうございました。

35) wa:sa su:ti:tŋi=nu nai=ge:tu kwe:jutaN=ruwa
私たち、蘇鉄の 実まで 食べていたよ。

36) ŋittŋa:, wa:sa juraN=jo:
お父さん、私たちを 呼んだよ。

waNとことなり、wa:saには、とりたて助詞aとの融合形がある。

37) wa:sa: ŋimagutŋi tŋike:jufiŋa, na:sa: tŋiko:muN=ruwa
私たちは、鳥島言葉を 使うけど、彼らは、使わないよ。

ほかの助詞は、語形が変化せずにwa:saにつく。

38) aje: wa:sa=Nke: aNŋi ijaNnibuko: na:N-gane: suN=ruwa
彼は、私たちに そう 言われたくないみたいだよ。

39) wa:sa=tu madzuN ittŋuN=no?
私たちと 一緒に 行くか？

属格のばあいは、wa:saが用いられず、上に述べたwaNの属格形式wa:のみが用いられる。waNとwa:saは、用法の相違点がないようである。鳥島方言のwa:saに相当する喜界語小

野津方言のwa:kja (白田2014) は、聞き手を含む包括形としてしか用いられないが、次の用例で示しているように、鳥島方言のwa:saには、そのような特定した用法がない。

40) 聞き手を含まない「私たち」

- a. fittʃa:=ja u: jubaNta:. waN=ru jurai
b. fittʃa:=ja u: jubaNta:. wa:sa=ru jurai
お父さんは、あなたたちを 呼ばなかった。 私たちを 呼んだんだ。

41) 聞き手を含む「私たち」

- a. wa:sa, madzuN numa=ja:
b. wa:, madzuN numa=ja:
私たち、一緒に 飲もうね。

6. 二人称

二人称で同輩や目下をあらわすには、二人称代名詞ʔwe:とʔwa:/uwa:が用いられる³。ʔwa:/uwa:は、ʔwe:よりやや蔑んでいる言い方である。ʔwa:/uwa:の語源に関しては、名護市史編さん委員会 (2006: 417) では、沖縄語北部諸方言の二人称代名詞の古語推定形として「オレ」があげられており、それが狭母音化して「ウリ」になり、それに卑称の語尾「アー」がつき、沖縄北部であまねく見られる「ウラー」ができたとのことである。鳥島方言では、「ウラー」がrの弱化でuwa:になったと思われる。ʔwa:は、uwa:のuが声門閉鎖音にリデュースされた形である。

ura: → uwa: → ʔwa:

現在、uwa:とʔwa:は、両方用いられているため、変化の途中であると言ってよからう。

ʔwe:は、ore系にさかのぼると思われるが、どのような変化をとらえてきたかは、明らかではない。ʔwe:は、与論島で用いられる二人称の敬称のure:と同源であると考えられるが、鳥島方言におけるʔwe:は、ʔwa:/uwa:ほどの卑称でなくても、決して敬称ではない。

³ 野原 (1980: 117) には、ʔwai=ga=ru「お前がぞ」という二人称形式も出ているが、ʔwa:=ga=ruの誤りである可能性が高いため、本稿では、対象としないことにする。

表5 二人称非敬称単数形の文法的機能

	助詞	ʔwe:系	ʔwa:/uwa:系
主格	ga	ʔwe:ga/u:ga	uga/ʔwa:ga
属格	–	ʔwe:	ʔwa:/uwa:
与格 (相手)	ga/–	ʔwe:ga	ʔwa:
共格	Nke:/ke:	ʔwe:Nke:/ʔwe:ke:	ʔwa:Nke:
対格	tu	ʔwe:tu	?
トピック	–	ʔwe:	?
並列	ja	ʔwe:ja	?
フォーカス	N	ʔwe:niN	?
極限1	ru	ʔwe:ru	?
極限2	daki	ʔwe:daki	?
数詞複合形 (あなた一人)	ge:tu	ʔwe:ge:tu	?
		ʔwe:Ntʃi:	

ʔwe:は、助詞がつかない形では、主語としても目的語としても用いられ、名詞述語文の述語としても用いられる。

42) ʔwe: itʃimaNui suN=jo:
あなたを 糸満売りするよ。

43) wa: suN-kina ʔwe: saNtiN ʃimuN
私たちガ するから、あなたハ、しなくても いい。

44) namasatʃi ʔwe: re:taN=na:?
先ほど あなた だったのか？

ʔwe:に主格と属格をあらわす助詞gaつくことに関して野原 (1980 : 109) は、「gaについてʔwe:gaとはならない」と述べている。野原が1979年に1921年生まれと1915年生まれの2人のインフォーマントに得られたデータであるとのことであるが、著者が2016年に1920年生まれのSM氏 (女性) と1921年生まれのIY氏 (女性) に得られたデータに次の用例がある。

45) ʔwe:=ga hama: dʒui=ja?
あなたの 釜は、 どれか？

46) tʃinu: ʔwe:=ga haje:taje:, ɸu:=ja a: haje:juN=ruwa
昨日、あなたが 払ったから 今日私ガ 払うよ。

ʔwe:gaが主語になる用例は、久米島町字鳥島周辺で話されている沖縄語諸方言で用いられるja:gaやjaru:ga「あなたが」という形式の影響でできた言い方である可能性があるが、ʔwe:gaが属格になる用例のばあいは、沖縄語久米島諸方言に相当する言い方が存在しないため、沖縄語の影響ではないと思われる。純粋な鳥島方言であるか最近のイノベーションであるかは、不明である。

ʔwe:は、語形変化をとらずにあらゆる助詞がつく。

47) ʔwe:=tu aN=tu tʃo:re:=ne:-ʃi=ru u-ssa
あなたと 私は 兄弟のように いる。

48) ɸunu kwa:ʃe: ʔwe:=Nke: ko:suN
この お菓子は、 あなたに 食べさせる。

49) ʔwe:=Nke:=ja aNʃi ijaNnibuko: na:muN=duwa
あなたには、 そう 言われたくないよ。

50) abo: daidzitu-je: ʔuwa: hakiba
私は、 疲れているから、 あなたガ 書け。

51) uwa: nu: suN=tʃi waN juraN=no:?
あなた、 何をするために、 私を 呼んだか？

52) ʔwe: itʃimaNui suN=jo:
あなたを 糸満売りするよ。

53) ʔwe:=ge:tu wuruti re:N=na?
あなたまで 踊ったのか？

54) ʔwe:=ke: ijuN=tʃi re:taʃiga, waf:i:ti re:taN=ra:
あなたに 言うつもり だったけど、 忘れたのだよ。

二人称の並列形式の ?we:niN 「あなたも」は、一人称の abuniN 「私も」と同様、人称代名詞語根+助詞 ni に並列助詞 N がつき、 niN という要素が人称代名詞についた形であるため、共時的には、 niN を一人称・二人称代名詞専用並列助詞として認めてよいと思われる。

55) ?we:niN wuruti re:N=na?
あなたも 踊ったのか?

56) ?we:niN ittisuN=na? abuniN itsufiga…
あなたも 行くか? 私も 行くけど…

uwa:/?wa: は、上にも述べたように、 ?we: より蔑んでるような言い方ではあるが、かならずしも悪気で用いるわけではないようである。

次の用例で示しているように、 ?wa: には、主格助詞 ga がつきうるが、助詞のない形でも主語に位置にあらわれる。助詞のある形と助詞のない形の用法の相違点は、未確認である。

57) waN=ga suN-kina uwa: $\phi\text{u:NtiN}$ fimuN=jo:
私たちが やるから、 お前、 来なくても いいよ。

58) uwa: nu:wa waN juraN=no?
お前、 なぜ 私たちを 呼んだのか?

59) ?wa:=ga itfu*f*i atatuN=ruwa
お前が 言っていること、 合っているよ。

uwa:/?wa: は、属格形式にもなる。

60) aN*f*i *f*iN saN*t*iN ?wa: katti=jo:
そう しても しなくても、 お前の 勝手だよ。

次の用例では、与格助詞 Nke: と共格助詞 tu が uwa:/?wa: についている。調査では、 uwa:/?wa: が出にくかったため、そのほかの形式は、未確認である。

61) ?wa:=Nke: kuijuN=*t*f*i* re:*t*a*f*i*g*a…
お前に やるつもり だったけど…

62) uwa:=tu madzuN itfibusasa:
お前と 一緒に 行きたいわ。

二人称双数代名詞は、utte:である。utte:は、二人称代名詞語根u-に双数形接辞-tte:がついた形である。

表6 二人称双数代名詞の語形と文法的機能

	助詞	
主格	ga	utte:ga
属格	ga	utte:ga
与格 (相手)	Nke:/ke:	utte:Nke:
共格	tu	utte:tu
対格	-	utte:
トピック	ja	utte:ja
並列	N	utte:N
フォーカス	ru	utte:ru
極限	ge:tu	utte:ge:tu

utte:「あなたたち二人」には、語形変化せずにあらゆる助詞がつく。

63) utte:=ja nu: fe:tsuN=na:?
あなたたち二人は、何を しているのか？

64) ϕ e: utte:=ga haNme: =ruwa
これは、あなたたち二人の ご飯だよ。

複数の目下に対して用いる二人称代名詞は、u:とu:saである。u:は、二人称代名詞語根u-が最小2モーラ制約で調音化した形であり、複数をあらわすマーキングがなくても複数しかあらわせないという点が特徴的である。u:saは、調音化した二人称代名詞語根u-に複数接辞-saがついた形である。

表7 二人称複数代名詞の文法的機能

	助詞	u:	u:sa
主格	ga	u:ga	u:saga
属格	—	u:	—
与格 (相手)	Nke:/ke:	u:Nke:	u:saNke:
共格	tu	u:tu	u:satu
対格	—	u:	u:sa
トピック	ja	u:wa	u:sa:
フォーカス	ru	u:ru	u:saru
極限	ge:tu		
数詞複合形 (あなたたち4人)		u:jutai	

u:とu:saという形では、主語にもなり、対格にもなり、名詞述語文の述語にもなる。

65) u:, nu: fe:tsuN=no?

あなたたち、何を しているのか？

66) u:sa, itfi tfu:N=tfi re:N=no?

あなたたち、いつ 来るつもり なのか？

67) φune: waN=ga sufiga, tfige: u: jiri

今度、私たちが やるけど、次は、あなたたち、やれ。

68) fittja:=ja u: jubaNta:. waN=ru jurai

お父さんは、あなたたちを 呼ばなかった。私たちを 呼んだんだ。

69) abo: u:sa jura-figa=ja:

私は、あなたたちを 呼んだけどね。

70) irabatafe: u:=ruwa

選ばれたのは、あなたたちだよ。

71) no:tafe: u:sa=ruwa

叱られたのは、あなたたちだよ。

属格のばあいは、u:のみが用いられる。

72) u: <do:gu> re:N=na?
あなたたちの 道具 なのか？

73) u: ja:=ja ma:=ja?
あなたたちの 家は、 どこか？

数詞複合形式もu:のみで作られる。

74) kafi jimijuN=tfi=ru u:-jutai jurai
手伝いを させようと、 あなたたち4人を 呼んだんだ。

とりたて助詞aがつくばあいは、u:は、u:waになり、u:saは、u:sa:になる。

75) u:wa wako: na:NtamuN=ruwa. na:sa=ga=ru wassutai.
あなたたちは、 悪くなかったよ。 彼らが 悪かったんだ。

76) wa:sa: naju-figa, nu:wa u:sa: najaN=fe:?
私たちは、 できるけど、 なぜ あなたたちは できないのか？

そのほかの助詞は、u:とu:saにつきうる。

77) u:sa=ni fikutji jimija=ja: =tji umuiN=ruwa
あなたたちに 仕事を させようと 思うよ。

78) u:sa=tu madzuN itfibusasa:
あなたたちと 一緒に 行きたいわ。

79) ϕ ui u:=Nke: kuijuN
これを あなたたちに あげる。

属格は、u:でしかあらわされないこと以外には、u:とu:saには、用法の違いがないようである。話者の内省によると、属格以外の用例では、置き換えることができるとのことで

ある。

鳥島方言では、二人称敬称としてna:が用いられる。na-系二人称は、与論と徳之島以外に北琉球諸島であまねく見られる二人称敬称である。沖縄とその離島では、‘百姓敬語’として知られており、士族が用いる二人称敬称uNdzuと対立している。

表8 二人称敬称単数形na:の文法的機能

	助詞	
主格	ga	na:ga
属格	—	na:
与格 (相手)	Nke:/ke:	na:Nke:
共格	tu	na:tu
対格	—	na:
トピック	ja	na:ja
並列	N	na:N
フォーカス	ru	na:ru
極限	ge:tu	na:ge:tu
数詞複合形 (あなた様御1人様)		na:tsutu:

na:には、語形変化せずに助詞がつく。

80) na:=Nka: agiNso:Nba
 あなた様から 召し上がれ。

81) wa: suN-kina na:=ja saNtiN fimuN
 私たちが やるから、 あなた様は、 しなくても いい。

82) na:N wuruiNso:tji re:N=na?
 あなた様も お踊りになったのか？

83) ϕ e: na:=Nke: agijaŋi-je: mafi jaN-gane: agiNso:riwa
 これは あなた様に 差し上げるから 好きなように 召し上がれ。

na:は、助詞なしで属格形式になる。

- 84) na: hama: dzui=ja?
 あなた様の 釜は、 どれか？

na-系二人称代名詞の複数形は、nitta:である。-ta:は、三人称代名詞の複数形atta:などにも見られる複数接辞であるが、na:がなぜnatta:にならずにnitta:になるかに関しては、沖縄語からの借用語であると思われる。沖縄語諸方言においては、鳥島方言の?wa:と同根語である二人称代名詞?ja:の複数形は、itta:であり、名護市史編さん委員会（2006：419）によると、na:の複数形がnitta:になったのは、itta:との類推であるとのことである。

表9 二人称敬称複数形nitta:の文法的機能

	助詞	
主格	ga	nitta:ga
属格	—	nitta:
与格（相手）	Nke:/ke:	nitta:Nke:
共格	tu	nitta:tu
対格	—	natata
トピック	ja	nitta:ja
並列	N	nitta:N
フォーカス	ru	nitta:ru
極限	ge:tu	nitta:ge:tu
数詞複合形（あなた様方御2人様）		nitta:-tatu:

nitta:は、語形変化せずあらゆる助詞がつく。

- 85) nitta:=ja ma:=Nka: ?watjaN=na?
 あなた様方は どこから いらっしゃったのか？

- 86) nitta:=Nke: agijasun=jo:
 あなた様方に 差し上げるよ。

nitta:は、助詞なしでも属格形式にもなる。

- 87) nitta: ja:=ja ma:=ja?
 あなた様方の 家は、 どこか？

na-系二人称代名詞には、双数形がない。2人に対しては、複数形nitta:が用いられるが、2人であることを強調するばあい、nitta:に「2人」に敬称数詞-tu:の「2名様」をあらわすtatu:がつき、nitta:tatu:「あなた様方2名様」が用いられる。同じく、3人であることを強調すると、nitta:mitu:「あなた様方3名様」になる。

88) nitta:-tatu: re:fi=ja:
2名様 なんだね。

7. 三人称

三人称をあらわすのに ϕ ui (これ)、ui (それ・これ)、ai (あれ) という、ものや概念などを指示するばあいにも用いられる指示代名詞が使用される。

日本語の「彼女」(女性)と「彼」(男性)のような、性を区別する三人称代名詞は、鳥島方言には、ない。有情物をあらわすばあいのみ ϕ ui、ui、aiが複数形をとらえる。

表10 指示代名詞ai「あれ」、「彼・彼女」の文法的機能

	助詞	ϕ ui	ui	ai
主格	ga	ϕ uga	uga	aga
属格	ga	ϕ uga	uga	aga
与格 (相手)	Nke:/ke:	ϕ uiNke:	uiNke:	aiNke:
共格	tu	ϕ uitu	uitu	aitu
対格	—	ϕ ui	ui	ai
トピック	ja	ϕ uija	uija	aija
トピック融合形	ja	ϕ uje:/ ϕ e:	uje:/ η we:	aje:
並列	N	ϕ uiN	uiN	aiN
フォーカス	ru	ϕ uiru	uiru	airu
極限	ge:tu	ϕ uige:tu	uige:tu	aige:tu

ϕ ui、ui、aiの統合的な役割による形式は、上の表のとおりである。

語形が変化するのは、主格と属格をあらわすgaつくときと、トピックをあらわすとりたて助詞aがつくときである。gaがつくばあいは、-iという要素が脱落し、 ϕ uga「これが」「彼が・彼女が」、uga「それが」「彼が・彼女が」、aga「あれが」、「彼が・彼女が」になる。

89) a=ga aN fikaN hadzi re:figa aN=ge:tu juri
彼が 私を 好かない はず だけど、 私まで 読んだ。

90) a=ga hama: tʃike:te: najamuN=jo:
彼の 釜は、 使ってはいけないよ。

とりたて助詞aがつくばあいは、融合がおこるが、義務的ではない。次の用例では、融合がおこらない。

91) ai=ja tai jaje:?
彼は、 誰か？

次の用例では、融合がおこる。

92) ʔwe: wa:juʃiga, nu:wa aje: wa:jaN-fe:?
あなた 分かるけど、 なぜ 彼は 分からないのか？

93) aje: jana hitʃu=ruwa
彼は、 悪い人だよ。

ほかの助詞がつくばあいは、語形変化は、おこらない。

94) ʔwe: kwe:tiN ʃimuʃiga, ai=ne: ko:suna
あなたは 食べても いいけど、 かれには、 食べさせるな。

95) ai=jakaN ʔwe:=ga=ru maʃi=ruwa
彼より あなたが ましたよ。

有情物をあらわすばあいのみφui、ui、aiが複数形をとらえる。

φui + ta:> φutta:
ui + ta:> utta:
ai + ta:> atta:

これらは、語形が変化せずに助詞がつく。

96) atta:=ga nu:N saN-bafe: wa:sa=ga suN=jo:
 かれらが 何も しないから、 私たちが するよ。

属格形は、単独の形にあらわされる。

97) atta: aNma: dzima=nu hitfu re:
 彼らの 母、 儀間の 人 だ。

もう1つの三人称をあらわす代名詞の種類は、na:系である。この形式は、奄美群島で話される諸言語で広く見られる。見た目では、沖縄を含める北琉球語群であまねく見られるna:系の二人称敬称代名詞と似ているが、三人称をあらわすため、宮古語と八重山語で見られるnara系の再帰代名詞と同源であると考えられる。Lawrence (2013: 391) の報告によると、八重山語鳩間方言において照応的に用いられる再帰代名詞?una:は、三人称でしか使用できないとのことで、このような面で鳥島方言のna:系人称代名詞と似ている。na:系には、単数形がない点は、特徴である。

表11 na:系三人称代名詞の文法的機能

	助詞	双数natte:	複数na:sa
主格	ga	na:tte:ga	na:saga
属格	ga	na:tte:ga	na:saga
与格 (相手)	Nke:	na:tte:Nke:	na:saNke:
共格	tu	na:tte:tu	na:satu
対格	—	na:tte:	na:sa (naNta:)
トピック	ja	na:tte:ja	na:sa:
並列	N	na:tte:N	na:saN
フォーカス	ru	na:tte:ru	na:saru
極限	ge:tu	na:tte:ge:tu	na:sage:tu

na:系の特徴的なのは、双数形na:tte:もとらえることである。上の図でしめされている形式から見ると、na:系のさまざまな形式においてna:-が語根として機能するようである。na:-に双数接辞-tte:と複数接辞-saがつく。三人称複数代名詞のnaNta:という形式も確認されているが、話者のKO氏 (男1953年生まれ) によると、これは、純粋な鳥島方言ではないとのことである。

次の用例は、na:tte:とna:saの用例である。

98) wa:sa:, fimagutʃi tʃike:jufiga, na:sa: tʃiko:muN=ruwa
私たちは、鳥島言葉を 使うけど、 彼らは 使わないよ。

99) u:wa wako: na:NtamuN=ruwa.
あなたたちは 悪くなかったよ。
na:sa=ga=ru wassutai.
彼らが 悪かったんだ。

100) na:tte:, fimaNtʃo: ajamuN=ruwa.
彼ら2人は、鳥島の人 じゃないよ。
dzima=Nka:=ru tʃaN=ruwa
儀間から 来たんだよ。

φui, ui, ariとna:系との使用の相違点については、未確認であるため、今後の課題とする。話者の話によれば、φui, ui, ariとna:系の形式は、目下の三人称のみに用い、目上には、anu hitsu「あの人」の方を用いるとのことである。

8. 再帰代名詞

再帰代名詞（反照代名詞）は、主語など、その文のなかで先にあらわれた要素と同一指示であることを示す代名詞である。鳥島方言でru:「自分」が再帰代名詞である。もともとru:は、「体」という意味である。文法化して再帰代名詞にもなったが、次の用例で示すようにまだ「体」という意味でも用いられる。

101) ru:=nu tʃu:sasa:
体が 強いわ。

次の用例は、ru:の再帰代名詞としての使用の例である。

102) ru:=nu fikutʃe: ru:=ʃe:ni ʃiri
自分の 仕事は 自分で しろ。

「自分のもの」は、ru:gafiかru:nugafiが予想されたが、ru:nufiという形しか得られていない。

- 103) ru:=nu-fi tʃike:juʃi=ru mafi=ruwa
 自分を 使うほうが ましたよ。

9. 疑問代名詞

鳥島方言の疑問代名詞は、taiである。下の図でその文法的機能を示す。

表12 疑問代名詞taiの文法的機能

	助詞	単数形	複数形
主格	ga	taiga	tatta:
属格	—	ta:	tatta:
与格 (相手)	Nke:/ke:	taiNke:	tatta:Nke:
共格	tu	taitu	tatta:tu
対格	—	tai	tatta:

taiには、ta-という語根があるようである。属格で用いられるばあい、最小2モーラ制約の影響で調音化し、ta:になる。ta:は、主格助詞gaがつく語幹としても機能するが、複数接辞ta:がつくばあいは、tatta:になるのが特徴的である。

- 104) tai=Nke: ijattai ba:=ja?
 誰に 言われたのか?
- 105) unu ʃikutʃe: tai=ni ʃimitai ba:=ja?
 その 仕事は、誰に させたのか?
- 106) ta:=ga=ga mafi=ge: wa:jaN
 誰が ましか 分からない。
- 107) tai juraN=no?
 誰を 呼んだか?
- 108) tatta: jurai ba:=ja?
 誰々を 呼んだのか?

10. 指示表現

日本語記述文法研究会（2009：20）の定義によると、指示表現は、「単独の名詞として、あるいはほかの名詞や用言を修飾するなどして指示の働きを果たす形式である」とのことである。鳥島方言の指示表現は、日本語のコ系、ソ系、ア系に相当する3つの種類に分けられる。日本語のド系に相当する疑問詞もある。

表13 鳥島方言の指示表現。() に入っている形式は、予想されているが、調査では、出にくい形式である。

	指示表現			疑問詞
	コ系相当	ソ系相当	ア系相当	
もの・概念 (これ)	ɸui	ui	ai	dʒui/nu:
名詞修飾 (この)	ɸunu	unu	anu	nu:
場所 (ここ)	ɸuma	ʔma	ama	ma:
属性 (このような)	ɸugagu:nu	(ugagu:nu)	agagu:nu	tʃa:-sui
程度 (このぐらい)	ɸussa	ussa	(assa)	tʃasaki
程度 (こんなに)	haN		aN	tʃa:/tʃasaki
属性 (このような)	haNsui		aNsui	tʃa:-sui
方法 (こう・こうやって)	haNʃi		aNʃi	tʃa:/tʃa:-ʃi

上の図は、鳥島方言の指示表現をしめしている。ɸui類、ɸunu類、ɸuma類、ɸugagu:nu類、ɸussa類には、日本語と同様、三型体系あるのに対し、haN「こんなに」とaN「そんなに・あんなに」を含まれる指示表現には、二型体系である。

疑問詞dʒuiがもの・概念をあらわす機能（どれ）になる。

- 109) kwa:fe: ta:tʃi aʃiga dʒui=ga ma:saN=no?
お菓子は 2つ あるけど、 どれが おいしいか?

疑問詞nu:は、もの・概念をあらわす機能もあり、名詞修飾の機能もある。次の用例では、nu:がもの・概念をあらわしている。

- 110) nu: ho:taN=no?
何を 買ったか?

次の用例では、nu:が名詞を修飾し、「どの」という意味で用いられている。

- 11) nu: <hoN> ho:taN=no?
どの 本を 買ったか?

haN「こんなに」は、程度をあらわす指示表現である。

- 112) haN hi:sa=kai ju:iNso:juN=tʃi re:N=no?
こんなに はやくから お休みになるつもり なのか?

tʃasaki「どのぐらい」は、程度をあらわす疑問詞である。

- 113) utʃina:gutʃe: tʃasaki wa:juN=no?
沖縄語は、 どのぐらい 分かるか?

属性をあらわす疑問詞は、tʃa:-suiである。これは、方法の疑問詞tʃa:にsuN「する」の連体形suiがついた形である。

- 114) tʃa:-sui muN ʃusaN=na?
どのような もの 欲しいか?

属性をあらわす指示表現haN-sui「このような」は、単独で程度をあらわすhaN「こんなに」にsuN「する」の連体形suiがついた形である。次の用例は、haN-suiの用法の例である。

- 115) haN-sui muN ʃusaN=ruwa
このような もの 欲しいよ。

ʃugagu:nu「このような」は、もう1つの属性をあらわす指示表現であるが、haN-suiとどうことなるかは、今後の課題とされたい。次の用例は、ʃugagu:nuの用法の例である。

- 116) ʃugagu:nu ja:=ja hadzimiti mitʃasa:
このような 家は はじめて 見たわ。

aNʃi「そう」は、方法をあらわす指示表現である。単独で程度をあらわすaNにsuN「する」の中止形ʃiがついた形である。

- 117) aNfi fiN saNtiN ?wa: katti=jo:
 そう しても しなくても お前の 勝手だよ。

方法をあらわす疑問詞tfa:-fi「どう・どのように」は、方法の疑問詞tfa:にsuN「する」の中止形fiがついた形である。次の用例は、tfa:-fiの用例である。

- 118) jamatugutfe: tfa:-fi ubitaN=no?
 日本語は、 どのように 覚えたか

11. 疑問詞

疑問詞疑問文は、その命題の中に不明な情報が含まれていることをあらわす疑問文であり、不明な情報を疑問詞であらわす。疑問詞の一部については、前述した。上記以外の疑問詞は、次の図でしめす。

表14 鳥島方言の疑問詞

	日本語	鳥島方言
もの・出来事	なに	nu:
時	いつ	itfi
原因・理由	なぜ、なんで、どうして	nu:wa
事態	どう	tfa:
場所	どこ	ma:

不定代名詞（何か、いつか、どうにか、どこか、誰かなど）の作り方も特徴的である。北琉球諸語の多くの言語においては、-garaか-kaのような要素が疑問詞につき、不定代名詞になるが、鳥島方言においては、人をあらわす疑問詞taiのみに-ge:という接辞がつき、taige:「誰か」になる。

- 119) tai-ge: tfa:fi=jo:
 誰か 来たんだよ。

ほかの疑問詞には、-ge:がつかず、コピュラの譲歩形jatiN（日本語のデアッテモに相当する形式）が疑問詞か、疑問詞が主要部になる名詞句につく。次のとおりである。

- 120) ma:=na:=jatiN aN=jo:
 どこかに ある。
- 121) nu:=jatiN ai=ru sutaN=na?
 何か あったのか？
- 122) tfa:=jatiN saNde: najaN=ja:
 どうにか しなければならないね。

まとめ

本稿では、北琉球硫黄鳥島方言における代名詞の体系についておこなった。確認された点のうちには、次の点が特徴的である。1) 鳥島方言には、a-系が一人称単数代名詞にしか用いられず、wa-系が一人称双数代名詞と一人称複数代名詞にしかもちられない。それぞれは、統合的な役割やつく助詞により語形変化をとらえる。2) 鳥島方言には、純粋な双数形代名詞が存在する。これらは、ただ人称代名詞語根に「2人」という数詞がついた形でなく、人称代名詞語根+双数形専用接辞-tte:である。3) waN「私たち」とu:「あなたたち」という形式には、〈複数〉をあらわす要素が入っていない。これは、北琉球諸語のなかで鳥島方言にしかない特徴である。

次の表は、北琉球諸語のうちの9つの言語の人称代名詞体系のwa系、ore系、三人称のna系、are系に属する形式を示している。鳥島方言の代名詞体系は、沖縄とその離島で話されている言語より奄美群島で話されている言語のそれと共通点が多いことが分かる。奄美群島の諸言語の共通点は、①双数形専用形式があること、②wa系、ore系の複数系が-kja系接辞による形式であること、③三人称のna-系形式の存在である。

表15 北琉球諸語に属する9つの言語の人称代名詞の体系。()に入っている形式は、
 双数形式であるが、人称代名詞語根に「2人」という数詞がついた形式である⁴。

	1 単 数	1 双 数	1 複 数	2 単 数	2 双 数	2 複 数	3 単 数	3 双 数	3 複 数	3 単 数	3 複 数
	wa系			ore系			na系			are系	
硫黄島	—	watte:	wa:sa	uwa:	utte:	u:sa	—	na:tte:	na:sa	ai	atta:
久米島謝名堂	wanu	—	watta:	ja:	—	itta:	—	—	—	ari	atta:
沖繩首里	waN	—	watta:	ʔja:	—	itta:	—	—	—	ari	atta:
沖繩奥	waN	—	wasa:	ura	—	uri:	—	—	—	ari	atta:
与論麦屋	wanu	(wattai)	wa:tʃa	ura	(urattai)	uratʃa	na:	(nattai)	na:tʃa	ari	anta:
沖永良部正名	wanu	watte	wakja	ura	utte	ukja	na:ni	natte	nakja	ari	aNta
奄美湯湾	waN	wattə:	wa:kja	ura	uttə:	urakja	—	nattə:	—	ari	atta:
奄美浦	waN	(wattari)	wakja	ʔja:	(ʔjattari)	ʔjakja	—	—	—	ari	atta
喜界上嘉鉄	waN	(wattari)	waNna: 除外 watʃa: 包括	da	(dattari)	daNna:	有 ⁵	?	?	ari	aNna:

鳥島方言における二人称敬称na:は、北琉球諸語であまねく見られるna-系に属するが、その複数形のnitta:は、上の表で示されている形式より沖繩的であることが特徴的である。複数形が接辞ta:による形式であることは、沖繩とその離島と沖永良部で広く見られる現象であるが、人称敬称代名詞語根na-の母音が/i/に代わるのは、沖繩でしか見られない現象であるようである。上にも述べたように、これが二人称卑称複数代名詞itta:との類推であることから、nitta:が沖繩語から借用した形式であることが分かる。

⁴ 与論麦屋は、菊 千代；高橋俊三 (2005)、奄美湯湾は、Niinaga Yuuto (2014)、奄美浦と喜界上嘉鉄は、重野裕美；白田理人 (2016) から。

⁵ 岩倉 (1941: 191) によれば、喜界島方言において、三人称のna:は尊敬語として用いられていた。しかしながら、最近の現地調査の結果では、喜界島の諸方言のうち、少なくとも志戸桶集落／小野津集落／上嘉鉄集落の各方言においては、現在では語幹na:を含む語形は二人称(敬称)にのみ用いられ、三人称には用いられていない(白田理人p.c.、ただし、岩倉 (1941) は出身地である阿伝集落の語彙を中心として取り上げているため、島内の方言差の可能性も否めない)。

表16 北琉球諸語に属する9つの言語におけるna系二人称敬称代名詞の形式。

	2 単数	2 双数	2 複数
硫黄鳥島	na:	—	nitta:
久米島比屋定	na:	—	natta:
沖縄首里 (百姓)	na:	—	nitta:
沖縄奥	na:	—	natta:
与論麦屋	—	—	—
沖永良部正名	nata	(nata-tatokoro)	natata
奄美湯湾	na:	nattə:	na:kja
奄美浦	naN	nattari	nakja
喜界上嘉鉄	na:mi	(natta-to:ru)	na:tfa:

指示表現のhaN類を北琉球語群の諸言語と比較すると、表17のとおりになる。

表17 北琉球語群に属する9つの言語における指示表現の体系。鳥島方言では、haN類は、程度をあらわすが、ほかの言語では、それに相当する表現は、日本語の「そう」に相当する〈方法〉をあらわす⁶。

	コ	ソ	ア
硫黄鳥島	haN		aN
久米島謝名堂	kaN		aN
沖縄首里	kaN		aN
沖縄奥	haN		aN
与論麦屋	haN	gaN	aN
沖永良部正名	haN	gaN	agaN
奄美湯湾	kaN	gaN	agaN
奄美名瀬	kaʃi	ugaʃi	agaʃi
喜界小野津	haʃfi		aʃfi

上の表で示しているように、鳥島方言のhaN類の指示表現は、沖縄に属する諸言語と喜界語と同じく二型体系である。

明らかでない点としては、一人称複数代名詞のwaNとwa:saの使い分けと二人称複数代名詞のu:とu:saの使い分けがある。面接調査では、それらの用法の相違点に関して情報が

⁶ 奄美名瀬の資料は、寺師 (1985)、喜界小野津は、白田 (2013) から。

得にくかったが、自然談話をとり、その分析によって何らかの使い分けの詳細が分かってくる可能性がある。

参考文献

- Lawrence, W. P. (2012). Southern Ryukyuan. In D. N. Tranter (ed.) *The Languages of Japan and Korea* (pp. 381-411). New York: Routledge
- Miyara, Shinsho (2011). Clausal Focus Structure in Okinawan. 『欧米文化論集』 第55号 pp. 85-111
- Niinaga, Yuto (2014). *A Grammar of Yuwan, a Northern Ryukyuan Language*. Unpublished PhD. thesis, University of Tokyo
- かりまたしげひさ (2013) 「記述文法の可能性と不可能性 —火山噴火避難の硫黄島島の方言から考える」『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究』研究発表会
- 下地理則 (2013) 「琉球諸語の代名詞双数形」『琉球諸語と古代日本語に関する比較言語学的研究』報告書、pp. 17-32、京都大学大学院文学研究科言語学研究室
- 岩倉市郎 (1941) 『喜界島方言集』 東京：中央公論社
- 菊 千代；高橋俊三 (2005) 「与論方言辞典」武蔵野書院：東京
- 寺師忠夫 (1985) 「奄美方言、その音韻と文法」根元書房：東京
- 重野裕美；白田理人 (2016) 「北琉球奄美方言における有生性階層—奄美大島浦方言と喜界島上嘉鉄方言・小野津方言を例に一」『広島経済大学研究論集』 38 (4)号 pp. 111-133
- 中本正智 (1980) 「鳥島方言の語彙」『琉球の方言』 6号 pp. 7-50 法政大学沖縄文化研究所：東京
- 津波古敏子 (2009) 「硫黄島方言の諸相」鳥島移住百周年記念実行委員会『鳥島移住百周年記念誌』 pp. 245-294 久米島町：鳥島移住百周年記念実行委員会
- 徳永晶子 (2013) 「沖永良部島国頭方言の人称代名詞」『琉球の方言』 38号 pp. 179-195 法政大学沖縄文化研究所：東京
- 内間直仁 (1980) 「久米島鳥島方言の文法」『琉球の方言』 6号 pp. 51-85 法政大学沖縄文化研究所：東京
- 内間直仁 (1985) 「琉球方言文法の研究」笠間書院：東京
- 日本語記述文法研究会編 (2009) 『現代日本語文法7：第12部 談話、第13部 待遇表現』 東京：くろしお出版
- 白田理人 (2013) 「奄美語喜界島小野津方言の談話資料」田窪行則 編『琉球列島の言語と文化：その記録と継承』 259-290 東京：くろしお出版
- 白田理人 (2014) 「奄美喜界島小野津方言の一人称代名詞の複数形」 日本語学会 第148回

大会 2014年6月7日

名護市史編さん委員会編（2006）「名護市史本編・10 言語」名越市役所：名護市港
野原三義（1980）「久米島具志川村鳥島方言の文例」『琉球の方言』6号 pp. 109-123 法政
大学沖縄文化研究所：東京